

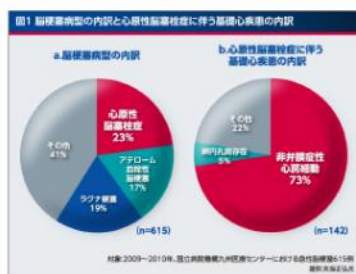
AI & IoT の医療への応用

脳卒中患者の遠隔診療におけるウェアラブルデバイスの応用 Application of wearable devices in telemedicine for stroke patients

患者の容態をセンシング技術を利用して把握し、適切な医療・介護を効率的に実施することは、超高齢化社会を迎える日本にとって重要であると思われる。

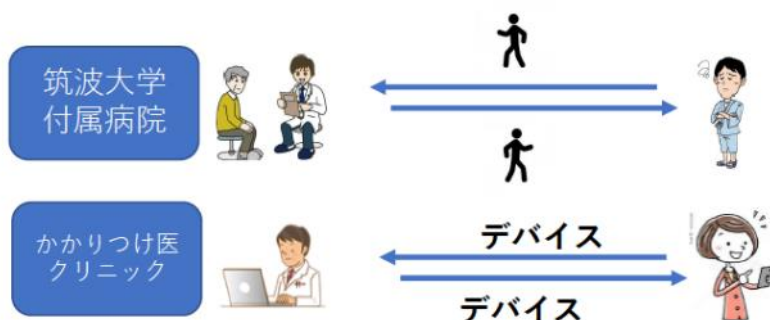
脳卒中患者にウェアラブルデバイス(WD)を装着し、不整脈を感知する試みを行い、将来の遠隔診療におけるWDの可能性を検討する。

ウェアラブルデバイスを用いた脳梗塞患者の不整脈検出



- ✓ 脳梗塞患者では23%が心臓からの塞栓
- ✓ しかも心臓から塞栓の原因は心房細動（不整脈）
- ✓ 発作性心房細動がかなりある（通常診察では検出できない）

ウェアラブルデバイスで発作性の心房細動を検出、治療して、脳梗塞患者の脳梗塞再発率を改善する。



遠隔医療にウェアラブルデバイスを組み合わせる

新しい診療形態の実装試験でもある
医療過疎地には最適！

WDは現在急速に社会に浸透しつつあり、iWatchなどでも不整脈の一部は検出可能になっている。しかし収集されるデータの医学的意義が明確でない事と医療なのかサービスなのかというビジネスモデルの構築という問題があると思われる。今回の試みでWDの遠隔医療における可能性が確認され、将来WDが遠隔医療の一つのオプションになることを期待している。